チャレンジ！！オープンガバナンス 2017 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル（注１）	No.	タイトル	自治体名
	-（事務局用）	統計データ活用ワークショップによる、市民協働体制への基礎作り	茨城県水戸市
アイデア名（注１）（公開）	「水戸市データサロン」		

（注１）地域課題タイトルは、COG2017 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

（注 2）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

1．応募者情報

チーム名（公開）	Code for Ibaraki	
チーム属性（公開）	◉ 1. 市民によるチーム　○ 2. 学生によるチーム　○ 3. 市民、学生の混成によるチーム	
メンバー数（公開）	３名	
代表者情報	氏名（公開）	井川　健一
メンバー情報	氏名（公開）	柴田　重臣、三浦　真吾

（注意書き）※　必ず応募前にご一読ください。

＜応募の際のファイル名と送付先＞

1．　応募の際は、ファイル名を COG2017_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2017 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin_padit_cog2017@pp.u-tokyo.ac.jp

＜応募内容の公開＞

2．　アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者氏名、「アイデアの説明」は公開されます。

3．　公開条件について：

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示ー非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

（具体的なライセンスの条件につきましては、https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja、および、https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。https://creativecommons.jp/licenses/）

4．　上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません）

5．　この応募内容のうち、「審査項目自己評価」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあり得ます。

＜知的所有権等の取扱い＞

6．　「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、や知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「審査項目自己評価」中も同様でお願いします。

7．　「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

＜チームメンバー名簿＞

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2．の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧下さい。）

２．アイデアの説明（公開）

（1）アイデアの内容、（2）アイデアの論拠、（3）実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、だれが、何を、どこで、いつ、どのように、する公共サービス（活動）なのか、これらの要素を入れて**内容そのもの**をわかりやすく示してください。**1 ページ以内**でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

水戸市民が身のまわりの課題について考えるため必要なデータを探し、関連するオープンデータに親しむ場として「水戸市データサロン」をスタートする。

【水戸市からの課題】
統計データを活用し，市民との地域課題の共有を図る
・市町村では，国，県からの委託を請けて統計調査事務を実施しているが，調査で得られた実際のデータの利活用については議論されたことがない。
・オープンデータ推進の目的の一つである「市民参加・官民協働の推進」のため，データ活用に向けた市民との対話を継続的に行う必要がある。
・自治体の課題が真に市民の考える課題なのか，「地域課題の本質」についても議論を深めたい。

【アイデア提案】
水戸市情報政策課では数年前より「水戸市オープンデータライブラリ」として行政オープンデータ公開ページを持ち、データも日々充実してきている。しかしながら、課題として提示されているとおり、まだまだ活用の余地がある。
課題を解決する一助とするため、「水戸市データサロン」を提案する。オープンデータ自体をまったく知らない市民や職員が気軽に立ち寄り、オープンデータについて知識を得て、市民どうしでアイデアを議論できる場の提供を行うものとする。オープンデータがより広く市民や市職員に活用されるためには、オープンデータ自体についての認知の向上、オープンデータや地域課題についての知識共有、データと地域課題についてのディスカッション、別の視点からの提案、同じ課題に関心を持つ人々のネットワーク形成など、いろいろな活動が必要となるが、そのための場という位置づけになる。
従来、行われているような専門家から市民へ一方的に知識を伝達するようなセミナーでは、なかなか実際のアクションにはつながらない。ある意味、何でもありの場として「水戸市データサロン」を提供することで、オープンデータを使った課題解決というような新しい活動を起こす化学反応を引き出すようにしたい。

「水戸市データサロン」の運営は具体的に以下のように行う。
水戸市情報政策課統計係からの協力を得て市役所内もしくは公民館等の公共施設で行う。想定される参加者は市民、市職員、専門家、課題を持つ人、誰にでも開かれたオープンな場とする。開催は市役所窓口の時間（平日９時から５時）にはこだわらず、土日や夜間など参加者ができるだけ集まりやすいよ時間を試す。需要に応じて月１回程度で開催するが定期的に開催することで、参加者側にアピールしていく。参加費用は基本的に無料もしくは場所代、茶菓子代程度。開催後は内容をホームページ等で発表し、告知等に努める。また、参加者によるオンラインでのつながりが保たれるようなことも必要。サロンのコーディネートはゆくゆく市役所側でもできるようになることが理想的だが、初期は Code for Ibaraki のようなオープンデータについて詳しいボランティア団体が担ってもよい。サロンではワークショップ形式でオープンデータに関する知識を深め、データを分析し可視化する手法やツールを学ぶことができる。また、データをもとにした議論を行い、課題に関連する政策についての知識を得るきっかけとすることも可能。副次効果としてワークショップをとおして、同様の課題に関心を持った市民どうしが知りあうきっかけ作りの場ともなる。

(2) アイデアの論拠（公開）

アイデアの**論拠（なぜこのアイデアなのかの理由付け）**について、それを**サポートするデータ**（統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの定性データ）**や証拠**（資料や計画、既存の施策など）（以下：総称して「データ類」といいます）などを含めつつ、**2 ページ以内**でご記入ください。データ類は出所を明らかにしてください。

オープンデータ活用について直接の統計データはないが、2012 年に行われた調査「未来の水戸をつくる市民 1 万人アンケート」によれば、行政への住民意向が反映されていると感じる市民はわずかに 6.7%しかいない。また、市民協働、市民自治を支える基礎である地域コミュニティ、町内会・自治会加入率も 2000 年に 82.8%あったものが、2005 年 74.9%、2010 年 68.0%と下がり続け、2016 年には 61%にまで下落している。そのため水戸市として「水戸市コミュニティ推進計画」をたてているが、そこでは住民自治の推進と協働体制の確立を目指している。具体的な対策として地域コミュニティプラン作成実現への支援、地域課題の共有、情報発信等が提案されているが、残念ながらオープンデータには言及されていない。オープンデータはオープンガバメントの基礎をなすものであるので、コミュニティづくりの一環としても認知度を上げて活用する機会をもうけるべきである。

未来の水戸をつくる市民 1 万人アンケート
http://www.city.mito.lg.jp/000271/000273/000280/000318/002705/p008632.html
水戸市コミュニティ推進計画（第三次）
http://www.city.mito.lg.jp/000042/000150/000151/p000856_d/fil/keikaku.pdf

オープンデータ活用の実際については、課題提出元である水戸市情報政策課統計係と Code for Ibaraki のメンバーが定期的に意見交換をして状況のヒアリングを行っている。オープンデータおよび統計データについて、市民にはまだまだ認知が進んでいない段階であるという話を聞き、ここからもオープンデータに市民がふれる機会が少ないことが確認できた。

また、データサロン開催に先立ちパイロットとして水戸市植物公園で「お茶会をしながら水戸市植物公園について語ろう！」と題したイベントを 2016 年 12 月 18 日に開催した。ここでは直接、水戸市オープンデータライブラリを扱ったものではなかったが、市民側のアイデアをカジュアルなスタイルで集めるという目的で開催し、24 名の参加者を集め、参加者アンケートによれば好評との結果を得た。自由記述欄には開催コンテンツだけではなく会場雰囲気やお茶菓子などについてのコメントも得られ、市民参加型サロンで必要な条件等についても確認できる貴重な機会となったと思う。
イベント報告資料（Google Drive）
https://docs.google.com/presentation/d/1IXq-FFCpXXOC-FZgsylffHcSfmBcWnMJr2B7xuldE6M/edit?usp=sharing
イベントアンケート結果（Google Drive　このドキュメントのみ個別名が出てくる部分があるため公開時はリンクを削除してください）
https://docs.google.com/document/d/10zeQyDey4wHaGdyzl40OpKJ1lH38aUkBDIB_WnGcpps/edit

同様に、2017 年 3 月には水戸芸術館で市民向けオープンデータ作成イベント、9 月に水戸市植物公園で特に年配の市民に向けオープンデータにふれるイベントを行った。

これらからのフィードバックを反映し、本アイデア「水戸市データサロン」の提案に至っている。

パイロットイベントの様子

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法（制約がある場合にはその解決策を含む）、アイデアの**実現にいたるプロセスとマイルストーン**等、アイデア実現までの大まかな流れについて、**2 ページ以内**でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

「みと市民データサロン」実現のために必要なものは、項目 1 アイデア内容の項にすでに示したが 2018 年 4 月より開催したいと考えている。

第一回目は時期を決定したのち、Code for Ibaraki メンバーによるコーディネートで行う。（主体・ヒト）
開催場所：市役所内会議室もしくは公共施設。課題を提示している情報政策課近くのオープンスペースでもよい。市側で予約していただく。（モノ）
予測参加者：最大 25 名程度、主に普段、国勢調査にご協力いただいている「水戸市統計協会」のメンバーを中心に声がけをして、参加者を集める。もちろん、関心がある方であるならどなたでも参加可能とする。
集客方法：市のホームページにイベント情報として載せるほか、市内の公共施設にチラシを置く等の方法で市民からの参加者も募る。「水戸市統計協会」の方々には別途直接イベントについてのお声がけをする。
提供内容：位置情報データをクラウド可視化することが可能な「ひなた GIS」というツールのハンズオンセミナーという形で水戸市オープンデータライブラリのデータにふれていただく形。数字だけのオープンデータを可視化することにより、何が見えるようになるのかを体感していただく。
一回目の反応を見ながら、二回目以降は RESAS や統計局ダッシュボードなど国等で展開しているオープンデータ活用サイトを紹介したり、使ってみたりする。他には、RESAS オンラインセミナーの共同受講などの企画を考えていく。
費用：場所代は無料、お茶菓子・文房具代程度。パソコンが必要な場合は、リーダーである井川さんが運営している子供向けプログラミングクラブ CoderDojo Mito で利用しているものが使えないか確認する。もちろん、参加者の持ち込みでも可能。いずれにせよ、費用はほとんどかからないため、必要があれば参加者から少額集めるなどで対応可能（カネ）
ゆくゆく参加者で知識をつけた人には「オープンデータマイスター（仮称）」などを認定し、運営側に回ってもらったり自主開催をお願いすることもできる。

将来：「水戸市データサロン」自体はあくまでもデータにもとづく課題解決、市民協働による行政などへの出発点のひとつである。この活動が発展させ、将来的には「水戸市データサロン」が「水戸市イノベーションセンター」となり、情報政策課統計係が水戸市イノベーション課となるように願っている。

横展開：データサロンというアイデア自体はシンプルなものなので、他自治体でもオープンデータの活用に課題がある所では応用可能だと考える。将来的に自治体間でノウハウを共有する「データサロン」リーグのようなものができても面白い。